

わらべうたの記憶にみる地域性

—メロディー分析を通して—

○ 関戸洋子 吉用愛子

(名古屋芸術大学短期大学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部)

I 研究目的

筆者らはこれまでに保育者養成学科に通う学生達を対象に、彼等がどのようなわらべうたを子どもの頃に遊び、記憶しているかを調査してきた。その結果、「花一匁」「かごめかごめ」「ずいずいずっころばし」「あんたがたどこさ」等のわらべうたを多くの学生たちが遊んでいたということがわかった。そして、わらべうたの歌詞には、地域によって違うものと地域差のないものがあることも分かった。しかし、これまでの調査では、メロディーの採集は行っていないため、学生の記憶するわらべうたがどのように歌われてきたのかはわかっていない。そこで、本研究では学生達がわらべうたのメロディーをどの程度記憶し、どのように歌っていたかを録音採集することによって明らかにしていくとともに、地域によって歌い方に違いがあるのかを名古屋市と岐阜地区に絞って比較する。

II 研究方法

(調査対象)

N大短大部保育科 2000 年度入学生 163 名

G大短大部幼児教育学科 2000 年度入学生 72 名

(調査時期)

2001 年 2 月～6 月

(調査内要)

まず、2000 年 10 月～12 月に学生達がどのようなわらべうたを子どもの頃によく遊び、記憶しているかを予備調査し、その中から最も記述の多いわらべうた 6 曲を選んで学生に一人ずつ歌ってもらい録音した。録音したわらべうたは、記述の多い順から「花一匁」「かごめかごめ」「ずいずいずっころばし」「おちゃらか」「アルプス 1 万尺」「郵便屋さん」である。

III 調査結果

(1) 学生の記憶にみる特徴

表 1 は学生達がそれぞれのわらべうたをどこまで歌えたかを比率によって表している。なお、「花一匁」

は、「最後まで歌える」グループの中に遊びの途中でふた手に分かれて相談するところの前まで歌った学生も含めた。

学生達が最もよく記憶しているわらべうたは「かごめかごめ」であり、88.9%の学生が曲の最後まで歌うことができた。そしてこのうたを全く歌えない学生は、わずか 2.1%であり、「かごめかごめ」のメロディーが学生達によく浸透していることがわかる。次に「おちゃらか」「アルプス 1 万尺」が続き、何れも 8 割以上の学生が曲の最後まで歌っている。「アルプス 1 万尺」を全く歌えない学生は、3.4%であり、「かごめかごめ」と同様の傾向がみられるが、「おちゃらか」を歌えない学生はこれら 2 曲にくらべると 10.2%と多いことがわかる。これらのわらべうたは幼児歌曲集などによく掲載されているものであり、メロディーの記憶が子どもの頃のものなのか、それともそれ以降のものなのかは特定できないが、学生のよく知っているわらべうたと言えよう。

表 1 学生の記憶にみる特徴

	最後まで歌える	途中まで歌える	歌えない
花一匁	67.2%	21.7%	11.1%
かごめかごめ	88.9%	8.9%	2.1%
ずいずい・・・	50.6%	35.3%	14.0%
おちゃらか	85.1%	4.7%	10.2%
アルプス 1 万尺	84.7%	11.1%	3.4%
郵便屋さん	68.1%	6.8%	25.1%

「花一匁」は、予備調査の結果では学生達が最もよく遊び、記憶しているわらべうたであり、筆者らのこれまでの調査でも最もよく遊ばれているものである。このうたを最後まで歌った学生は 67.2%であり、上記 3 曲にくらべると少ない。曲の途中で忘れてしまった学生が多く、この傾向は「ずいずいずっころばし」にもみられた。「郵便屋さん」は全く歌えない学生が、25.1%と多くみられた。

(2) 地域による比較

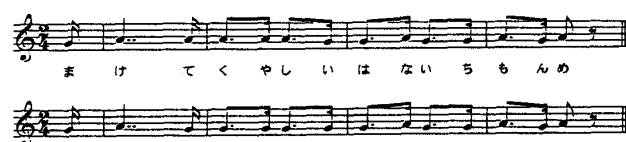
地域によってわらべうたの歌い方に違いがあるのかをみるため、名古屋市 (50 名) と岐阜地区 (31 名) の

学生のうたを比較した。なお、譜例は学生の実音ではなくミラー型を採用した。

① 花一匁

「花一匁」の冒頭の歌い方は全員同じだったが、「まけてくやしいはないちもんめ」の歌詞では2種類のメロディーが歌われていた。(譜例1)

譜例1

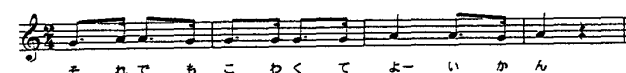


また、途中で歌われる問答の所には様々なバリエーションがみられた。名古屋市は「おかまかぶってちょっとおいで」が、岐阜地区では「鉄砲かついでちょっとおいで」が最も多く歌われていた。「おかま・・」はアウフタクトで歌われ、「鉄砲・・」は強拍部から歌われていた。(譜例2)両地域に共通するものには「ざぶとんかぶって・・」があった。この問いかけに対する返答には問いで歌われた「おかま」や「鉄砲」のメロディーをそのまま使って歌うものと、「それでもこわくてよういかん」という歌詞のついたメロディーがみられた。(譜例3)

譜例2



譜例3



② かごめかごめ

この曲は、ほとんどの学生が同じように歌っていた。唯一の違いは、曲中の「よあけのばんに」の下線部分を4分音符で歌うものと「ば」を長くのばし「ん」を「に」の直前に歌うものに分かれたところだけである。また、地域による違いはなかった。(譜例4)

譜例4



③ ずいずいずっころばし

この曲の冒頭は4種類の歌い方で歌われていたが、ほとんどの学生はこの曲を半音のない3音で始め、途中から転調して歌っていた。(譜例5)また、「ちゃ

つばにおわれてとっぴんしゃん」のメロディーが不確かな学生が多くみられた。地域による違いはなかった。

譜例5



④ おちゃらか

この曲は、全ての学生が同じように歌っており、地域差はみられなかった。

⑤ アルプス1万尺

この曲も、ほとんどの学生が同じように歌っていた。唯一の違いは、最後の音を2分音符でのばして歌うものと4分音符を二つ歌うものに分かれたところだけである。また、地域による違いはなかった。

⑥ 郵便屋さん

「郵便屋さん」には歌い始めから多くのバリエーションがみられたが、地域差として現れた箇所は、曲中の「ひろってあげましょ」の下線部分をアウフタクトで歌うものとシンコペーションで歌うものに分かれたところである。前者は名古屋市に、後者は岐阜地区に多かった。(譜例6)

譜例6



IV まとめ

今回の調査から、学生達の記憶するわらべうたにはバリエーションのほとんどないものと多くあるものがあり、前者は幼児歌曲集等に多く掲載され、後者はあまり掲載されていないものであることがわかった。地域性も前者には全くみられなかった。また、記憶という面からみると、前者は後者に比べると全曲記憶している者が多い。1曲が短く繰り返しが多いことが覚えやすさにつながっていると考えられる。それは1曲の長い「ずいずいずっころばし」を途中から歌えなくなる学生が多いことにも表れている。

今後は保育現場でどのようにわらべうたが遊び歌われているのかを調査していきたい。